※令和４年度以降入学生用

学校番号	３０２４

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	地理総合	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「高等学校　新地理総合」（帝国書院） 「新詳高等地図」（帝国書院）						
副教材等	「新編地理資料 2026」（とうほう） 「新編地理資料 2026 準拠　白地図作業帳」（とうほう）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

地理総合は、社会的事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結びつきなど、地域という枠組みの中で人間の営みと関連付け、地理的な見方・考え方を養う科目である。また、グローバルな視座から国際理解や国際協力の在り方を考える上で、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組みなどを理解することも重要である。地理的な課題の解決に向けて構想する力や、考察・構想したことを説明したり、議論したりする力を身に付けることを、ぜひめざして欲しい。

２　学習の到達目標

・社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。

・地理的な課題の解決に向けて、世界の生活文化の多様性や防災、地域や地球的課題への取組みなどを理解し、考察・構想したことを説明したり、議論したりする力を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	地理に関わる諸事情に関して、世界の生活文化の多様性、地域や地球的課題への取組みなどを理解するとともに、調査や諸資料から、地理に関する情報を適切かつ効果的に調べる力を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や特色、相互の関連や概念などを活用して多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明する力を身に付けている。	地理的な諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察を通して、日本国民としての自覚や世界の諸地域の多様な生活文化を尊重し大切にすることについて、自覚などを深めようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	地図や地理情報システムでとらえる現代世界	・地球儀と地図 ・地図と地理情報システム ・WebGIS を活用した統計地図の作り方 ・現代世界の国家と領域 ・日本の領域と領土問題 ・地図から見る国内や国家間の結びつき	a: 地球儀やさまざまな図法の地図から現代世界の姿を読み取ることを通じて、地図や地理情報システムの役割や有用性を理解する。地球儀やさまざまな図法の地図から現代世界の姿を読み取る技能や、地図や地理情報システムを利用する技能を身につけている。 b: 各種の地図にはどのような特徴があるのかや、地図や地理情報システムはどのように利用できるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 目的に応じた地図や地理情報システムの利活用の方法について、主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査	定期考査 レポート 課題 討論・発表 学習の振り返り	レポート 課題 討論・発表 学習の振り返り
	生活文化の多様性	・世界の地形と人々の生活 ・世界の気候と人々の生活 ・日本の自然環境と人々の生活	a: 世界の多様な生活文化を生む要因となっている地理的環境とはどのようなものなのかについて理解している。 b: 世界の生活文化の多様性や変化の要因をとらえるために、自然環境や社会環境といった視点から多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 世界の生活文化が地理的環境と深く関わることで多様性をもったり、変化したりすることについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。			

※令和４年度以降入学生用

後期	自然環境と防災	・地震・津波や火山活動による災害と防災 ・気象災害と防災 ・地理院地図で見る自然災害による被害 ・災害の危険度を新旧地形図の比較でとらえる ・ハザードマップの見方 ・自然災害への備え	a: 自然災害の発生場所や要因、日本の自然災害の特徴、生活の中にみられる防災・減災への取り組みを見いだすための、地理的見方・考え方を身につけている。 b: どのような自然災害がどのような場所で生じるのかや、日本の自然災害にはどのような特徴があるのか、どのような防災・減災への取り組みがなされているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 自然環境には災害と恩恵の両側面があり、人々が生活していくうえで必要な防災・減災に向けた備えについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査	定期考査 レポート 課題 討論・発表 学習の振り返り	レポート 課題 討論・発表 学習の振り返り
	世界の産業と人々の生活	・世界を支える農業の発展 ・多様な食文化とその変化―中国 ・農産物の輸出と生活環境の変化―東南アジア ・食文化と食料生産の変化―インド ・植民地支配によって変化する産業と食文化―サハラ以南のアフリカ ・伝統的食文化と地域による違い―ヨーロッパ ・大規模な農業がもたらす食への影響―アメリカ合衆国 ・伝統的な食文化と農業開発の歴史―ラテンアメリカ ・移民の影響を受けた食文化と伝統的な生活―オセアニア	a: 農業の国際化や技術の発達が、世界の人々の生活に影響を与えてきたことについて理解している。 b: 自らの食生活をイメージしながら、農業の国際化や技術の発達が、世界の人々の食生活にどのような影響を与えてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 農業の発展が、自らの食生活だけでなく世界の人々の生活も変えてきたことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。			

※令和４年度以降入学生用

	地球的課題と国際協力	・食料問題 ・地球環境問題	a: 世界と日本でどのような食料問題が生じているのかについて、また地球環境問題がどこで、どのような影響を及ぼしているのかについて理解している。 b: 各地で異なる原因に着目しながら、食料問題がどこで、どのような形となって生じているのかについて、また海洋汚染や熱帯林破壊に着目しながら、地球環境問題がどこで、どのように生じており、どのような影響が生じているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 食料問題の解決に必要な取り組みについて、また地球環境問題が引き起こされる要因や、各地に及ぼす影響について、主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査	定期考査 レポート 課題 討論・発表 学習の振り返り	レポート 課題 討論・発表 学習の振り返り
	生活圏の調査と地域の展望	・ 地理的な調査テーマの設定 ・ 事前調査と現地調査 ・ 調査結果の分析と仮説の検証 ・ 調査結果のまとめ方とプレゼンテーション方法	a: 生活圏の調査にあたって、仮説の立て方や調査結果の検証の方法、発表のしかたを理解している。生活圏の調査にあたって、仮説の立て方や調査結果の検証の方法、発表のしかたについての技能を身につけている。 b: 事前調査の結果からどのような仮説が立てられるのかや、現地調査の結果をどのように分析・整理するのか、他の事例との比較からどのようなことがいえるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 生活圏の調査の結果を地域に還元し、よりよい社会を築いていくことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度